

学位論文審査の要旨

	大塚 紫乃【論文博士】 【人間発達科学専攻 平成23年度生】 (平成26年3月31日 単位修得退学)	要 旨
学位申請者		<p>本論文では、幼児期後期において、どのように類推による問題解決能力が発達していくのかを検討するとともに、問題解決につながる問題構造の抽出を単独で行うことが難しい幼児では、それに代わる手法として、問題構造に関連する対象の属性に注意を向けさせる手法が有効なのではないかと考え、その点の検討を行い考察している。具体的には、対象の属性への注意を促すどのような教示が、幼児の問題に対するより本質的な理解へと促すのか、また、その効果や問題解決のあり方が5歳半頃が変わるのかについて、5歳前半と5歳後半の幼児を対象に、複数の道具と類似の道具を使って解決を行う物語文を材料に、6つの実験により実証的に検討した。審査委員会では、以下の2点を特に評価した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 5歳前半と5歳後半の問題解決の仕方の違いについて、6つの実験により、物語的な問題解決に対して実証的に検証している点 2. 従来の研究で示されなかった、幼児においては、構造につながる対象の属性に注目させることで、問題内容によっては問題解決を促す可能性があることを示している点 <p>本論文に対する審査は、平成28年11月25日(金)、平成29年1月13日(金)に行われ、平成29年2月7日(火)に公开发表と最終審査試験が行われた。第1回審査会で、論文の構成・概要や調査結果は評価されたが、序論と考察において、部分的にわかりにくい記述がなされていることが指摘された。第2回の審査会では、これらの問題に対して適切に修正がなされたことを確認した。公开发表では、丁寧な説明がなされ、質疑に対しても十分な回答を行った。</p> <p>以上の結果に基づき、本審査委員会では、本論文がお茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の学位、博士(人文科学)、Ph.D. in Psychologyを授与するのにふさわしいと判断した。</p>
論文題目	幼児はいかに問題を解決するのか —類推による問題解決能力の発達—	
審査委員	(主査) 准教授 上原 泉	
	教授 石口 彰	
	教授 坂元 章	
	教授 菅原 ますみ	
	教授 浜野 隆	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	